

Rihoの ドイツ便り

No.60

カーシェアリングいろいろ

これからは所有するのではなく、分かち合う時代…。
ドイツにある3種のカーシェアリングについて紹介する。

1. カーシェアリング www.hannovermobil.de

いわゆる既存のカーシェアリング。例えばハノーファーの「シティモバイル」では、市内54カ所に140台の車があり、3400人が会員となっている。最初に500ユーロ(5万円)デポジットを納めるが、脱退時に返却される。入会料は約79ユーロ(8000円)で、年会費60ユーロ(6000円)。

車の値段は大きさによるが、乗用車で1時間2,5ユーロ(250円)。そこに1キロごとに20円かかる(ガソリン代込み)。小型車やバン、ハイブリッド車もある。インターネットか電話で予約し、会員カードがキー代わりになるから簡単。



2. 隣の人の車を使おう www.nachbarschaftsauto.de

個人所有の車は平均23時間車庫で眠っているというが、それ活用しようというもの。「隣人の車」では、車を他人に仲介。1日20ユーロから。借りる人は同社に一日8,9ユーロ(900円)の保険代を払い、鍵の受け渡しや支払い方法については貸す人と借りる人の同意で決める。

車は近くにあるため、隣人同士の交流の場にもなっている。車の保有者は貸したくない人には貸さなくてよい。インターネットの普及により実現した新たな事業モデルで、今年3月にスタートしてからすでに2000人以上が登録し、全国の都市に広がりを見せている。

3. 手間いらずのフォルクスワーゲン www.quicar.de

フォルクスワーゲンは「クィッカー」と称して、11月半ばからハノーファー市でゴルフ50台を設置。初期登録に25ユーロ(2500円)かかる他は、諸経費込みで1分20セントとシンプルな料金体系。

各人が車を保有するのは環境に負担をかけるし、税金や保険など出費も多い。ドイツでは道路わきに駐車するため、駐車場を見つけるのも至難の技だ。カーシェアリングなら、気分や用途に合わせて車を選べるし、コスト負担も少ない。それでもあなたは車を買いますか。



田口理穂 ごみかんどイツ特派員

ドイツで子育て♪



4歳の明はこの夏から3-6歳の混合クラスにいますが、人間関係がいろいろ大変なようです。「ラルフがぼくの首をしめて息ができなかった。ぼく泣いちゃった」と言ったかと思うと「みんなでラルフを引っ張って泣かせた」とも言います。「エレンがぼくに嘘ついた」「アブダビが顔をつねった」とも。

「先生に話したの」ときくと「うん」というのですが、毎日こんな調子。通常は子ども25人に先生2人なのですが、先生の1人が別の園にうつることになり、今はひとりなので目が届いていないのかも。それとも幼稚園ではこれが普通なのか。明はきのう3回泣いたようですが、今日も嫌がらずに出かけていきました。